

生徒の感想

今では、新聞ではなくテレビやYouTubeでも情報が得られるので新聞はあまり読むことがないけど、新聞を作ろうと取材したことをノートにビッシリ内容を書いて、読者に伝えようとしている事が分かりました。私の家は新聞を取っていないけど、新聞を読む事はとても大切だと思いました。

私は荻野俊太郎さんの話を聞いて、新聞記者は大変だなと思いました。なぜかという、1日の仕事は沢山入っていてノートにもぎっしり書いてあって、すごいなと思いました。私はあまり新聞を読んだことはないけど、新聞記者の仕事について教えてくれたので、読みたいなと思いました。取材を聞くにはノートに沢山書かないといけないんだなと思いました。人とのコミュニケーションをとるのを大事にしていることもわかりました。

実物を見せてもらってわかりやすかったです。ノートはものすごいざっくり書かれていて、書くのが早いんだなと思いました。1ヶ月で自分がノートに何を書いているのかわからなくなると言っていました。

私は荻野さんと宮本さんの話を聞いて、取材の仕方や大変さが分かりました。新聞を書くだけではなくて、取材することも必要だと考えると大変だと思いました。

僕は、今回の学習を通して新聞記者さんがどういう仕事なのかというのがよくわかり、とても勉強になりました。取材時のメモの取り方が素早く書かなければいけないということは知っていましたが、まさかあれほどまで急いで書かないといけないとは思っていませんでした。そして、あの字を1ヶ月も記憶できるとはとても凄くて尊敬します。それともう一つ、淡路総局の人数を見せてもらいましたが、3人と説明された時には内心かなり驚きました。合計しても淡路内で5人なのは単純にすごいと思いました。何故なら、そんなに少ない人数で毎日新聞を発行していると考えると間違いなく大変な労力がかかっているからです。そして最後に、僕自身は相当文章の語彙力については自信がありましたが、新聞を見ると自分たちより表現豊かな文章を見て圧倒されました。なので僕も新聞記者まではいかないかもしれないけど、新聞記者さんと同じくらい表現豊かな文章を書いていきたいと考えています。

記者はその現地に行って即座に聞いてきたことをいかに読む人にわかりやすく伝えられるかが大切だとわかりました。現地に行って新聞に載せる内容もいいことばかりではないので、取材が悪いニュースは大変など言っていました。マスコミはそういう面では忙しく大変なことが多いと感じます。そのニュースのことをいつ、どこで、どんな風になど実際それを体験した人や見た人に聞いたり一つのニュースについて掘り下げて、自分が実際に見たり聞いたりして感じたことを新聞に載せていました。自転車の新聞では自分がやって思ったことを交えた文章を書いていました。荻野さんの洲本城ポスターについての実際の取材ノートでは、要点を急いで書き、必要な情報を取りこぼさないようにメモをしているのがよくわかりました。メモの様子からとても忙しく、取るのもざざっと書いた感じで短い時間で新聞の元となる大切なメモを取れるのはとてもすごいと思います。

私は今回話を聞いて見て、新聞社の中にはたくさんの人がいていろいろな役割があることが分かりました。また、記者の人はスケジュールがパンパンに詰まっていたとても大変そうでした。見せてもらった取材のメモは、丁寧な字ではなくて素早く書いていて、ものすごく熱心に取材をしていることが伝わってきました。新聞記者の仕事について知らないことが多かったけど、いろいろ知れてよかったと思います。

私は語彙が乏しく文章を書くのにも時間がかかるので、お話を聞いてまとめる新聞記者には向いていないと思います。私はわくわくオーケストラの新聞で表現を豊かにしたり詳細を書こうと試みましたが、辞書をいちいち見ていると時間がかかるし、優柔不断な性格なので表現を迷ったりするので、漢字を覚えるように熟語なども頭に入れておきたいと思います。実際に新聞記者になったらこんな言葉は2度と出ないでしょうけれど、適切な表現と丹精を込めた自分の文章はきっと美しく見えることでしょう。無論、新聞という公共の文章でそんな自己満足を込めようモノなら即時解雇か謹慎処分を喰らうのは日を見るよりも明らかです。それでも職を楽しむことは何より大切であると、その片鱗を見ることができたと思っています。

取材してまとめて…新聞記者が大変なのは元々知っていたけど思っていた何倍も難しい仕事なんだと気づきました。当たり前のように見えて1日で何枚もの新聞を作り上げるのってとてもすごいことなんだと思います。私は新聞一枚に何日もかけているので新聞記者には絶対向いていないなと思いました笑。朝から晩まで毎日決して楽ではない仕事をやり遂げる荻野さん達には感謝しかないです…🙏

荻野さんのノートを見せてもらって、情報を聞いてすぐを書くことはすごいことだと思いました！話は少し難しかったけど勉強になりました。質問にしっかり答えてくれていて、分かりやすかったです。

今回は荻野さんと宮本さんに新聞の書き方や書く時に気をつけること、また、取材の時に大切なことやしておくこと、そして、なぜ新聞記者を目指したのかや、昔のちょっと言いづらいことまで答えてくれました。今まであった人生の中での経験や、やって良かったなどと思えた瞬間のことまで話をしてくれ、とても新聞記者に興味を持つことができました。僕は、まだ将来がはっきりと決まっていらないけど、新聞記者というのも面白そうだなと思いました。内容はまだ理解できない部分もあるけど、これからもっと勉強して理解できるようにしたいと思いました。質問の答え方も分かりやすかったのが良かったと思いました。神戸新聞は僕はとってないけど、これからの勉強や、社会に出る時のために今からでも新聞を家でとろうかなあ〜と改めて思いました。そのほかにも淡路のあれだけの新聞の量をたった5人でそれも、分けて担当しているというところがとても印象に残っています。今まで考えたことのなかったような文化のこと、淡路島の魅力を見返すことができて本当によかったと思いました。このことを弟にも勧めて弟にも新聞のことにより興味を持ってもらいたいと思います。

今回新聞記者の荻野さんが新聞の事についてたくさんお話しをしてくれました。やっぱり話を聞いていたら内容が難しいところもありますが、少し荻野さんたちが苦労していること、大変な事、見て欲しい事が分かった気がしました。取材ノートを見せてもらったのですが、何を書いているのかあんまり読みとれませんでした、とても詳しく書かれているなと伝わりました。

荻野さんの話を聞いて、新聞記事のしんどさも知りました。新聞会社から、家まで届けるのにどうやって届けるのかを詳しく知りました。

新聞を毎日読んでもらうための努力などをして新聞記者が読者に飽きずに読んでもらう工夫をしているのが分かりました。

新聞記者達は字を素早く書かないといけないので、字が汚い僕でもできると思いました。新聞一枚を書くにはこんなにも難しいと知りました。

取材の時に使うノートを見てすごいなと思いました。字が汚くなるほど早く書いているんだなと思いました。取材の時に持っていくバックや道具が多くてびっくりしました。荻野さんはカッコいいのに彼女がいないことにもびっくりしました。新聞記者の方々は帰るのが遅かったことは知っていましたが、自分の予想と違って23時というとても遅い時間に帰っていることもあると知ってびっくりしました。1日分の新聞を作るのにとても多い工程があることを知りました。たまーに新聞に間違いがあることが分かりました（日付ミスなど）自分はのんびり屋だから新聞記者にはあまり向いていないのかなと思いました。

休んでいたのに詳しくは分かりませんが、新聞は前から全然読まないから、ちょっと興味が出てきました。新聞記者はどんな仕事をするのか、私は全然知らないの、家で調べてみようと思いました。

新聞記者の仕事ってすごく大変なんだなと思いました。特に取材の時、人の話を聞いてそれを早く書いていくのが一番忙しそうだなと思いました。新聞記者になったら書くのが早くなると思うので、特技にできそうだなと思いました。私は、新聞記者ってただ取材をするだけだと思っていたけど、まさか偉い人などと信頼関係をつるために喋ったりするという仕事もあるんだと知って驚いたし、びっくりしました。そしてすごく勤務時間が長いので、体に気をつけて欲しいです。

毎日私たちに新聞を届けるために、新聞記者の人たちはとても大変なんだと知ることができました。新聞ができるまでの過程が長いし、取材なども時間がかかると思うのですごくいいと思いました。取材にいくのに重い荷物を持って行ったり、メモをとったり、毎日忙しそうだなと思いました。

新聞記者は、簡単な仕事だと思っていた。でも、とても大変な仕事だった。相手との信頼関係とかきづくのはすごいと思う。その地方に、数人しかいなくて思ったよりも人が少なくて毎日忙しくと思う。カバンもあんなに重いのかってぐらい大きかった。

新聞記者の仕事は時間とかがあってとても大変だということがだということがわかりました。日々の積み重ねで色々な警察の人とかの話をして昨日何かあったとかの情報を聞くことができる。そういいところがすごいと思いました。

今回の勉強を聞いて、間違えていないか何回も確認しているところが読んでいる人からしたらとても嬉しいと思います。新聞の取材のとき相手の人と仲良くなれないといけないということがわかりました。

今回荻野さんと宮本さんの話を聞いて、新たに気づいたことがありました。私は小学校の頃の授業だったかは忘れたけど、新聞社の仕事の話聞いたことがありました。でもその時は資料を見たりするだけなので、あまり覚えていることがないです。今回は実際に新聞記者の方に来ていただいて話を聞けたので、資料だけでは分からない苦労などがわかりました。私の家では新聞をとっていないので、読む機会はあまりありません。最近、夏休みの宿題で新聞感想文を書くときに読んで、新聞には幅広い話題があってテーマを選ぶのに時間がかかりました。でもこんなに話題があるのは、記者の方がいろいろな場所に行って様々な情報を自分たちにわかるように文章で書いてくれているからだわかりました。今回授業中に質問する時間、私は何を質問すればいいのかわからなくて質問できませんでした。もし私が新聞記者になって取材に行くとなると、多分話が續かなくて時間が過ぎ新聞に書くことが少なくなりそうだなと思います。今回の授業では新聞記者の凄さがわかりました。

荻野と宮本さんに新聞社や記者のことを聞いて、今まで不思議に思っていたことを聞けました。取材をするときのノートを見せてもらって、そこには記者の人が使っている文字が書いてありました。また、新聞社では、どのような順序で仕事をするのか、それぞれの仕事はどんな役割があるのかなどを教えてもらえました。神戸新聞では、時代に合わせて新聞とインターネットで見れる2つの方法を採用してるのが工夫してるのかなと思いました。記者の仕事は決して簡単じゃないし、頭もいっぱい使うと思うけど、私も記者の人が一生懸命作ってくれた新聞の情報をいかして頑張りたいと思います。

新聞は文章が多く、読むのが苦手ですが、中学生でも読みやすいように面白さの表現をしているという工夫をされていると聞いたので、語彙力を増やすためにも読んでみようと思いました。

あまり新聞に興味がなかったけど、荻野さんと宮本さんの話を聞いて、新聞と新聞の仕事にも興味を持てました。普段は新聞を読まないけど、私が興味のあるところだけでも読んでみようと思いました。

あんまり新聞を読まないけど、荻野さんの話を聞いていろんな人に話を聞ける仕事は楽しそうだな、と思いました。

先日、新聞記者の荻野さんとデスクの宮本さんに来てもらい新聞に関する、仕事の内容を教わりました。僕は、今まで新聞は字が多くて難しそうなものだなと思ったり、あまり新聞自体を読まないけど、実際は中学生が読みやすいように頑張っていると言っていました。それを聞いた時に新聞をとて苦労しながら作ってくれているんだと思い、感謝しながら読んでいきたいと思いました。仕事の内容は、取材→執筆→編集会議→紙面制作→校閲→印刷→発送の順番に構成されているそうです。荻野さんは最初の取材を担当しているそうです。初めはとても緊張したそうで、足が異常に震えたそうです。震えすぎて心配されたのだとか…でも2年も働いていると慣れてきたそうです。全然知らない人に取材をするのは緊張すると思いますが、緊張せずに取材をするのは至難の業だなと思いました。

荻野さんと宮本さんの話を聞いて、新聞の会社で働くのもいいなと思いました。時間は日によって違うけど、短い日は短く働くことができるし、自分の調べたい記事を調べたりできることに興味を持ちました。インタビューとかに必要な国語力が中学生くらいあったら新聞が書けるといってくれたことで、やれる気がしました。

先日荻野さんと宮本さんのお話を聞かせてもらった。中でも私は新聞が作られるまでの工程に興味を持ちました。常に町の様子を警察の方々に確認したり、電話がかかってきた時には対応して、私たちに正しい情報を早く届けようとしてくれている記者の方々の姿がかっこいいなと思いました。そして神戸新聞では記者の方が書いた記事がその日は載らなくても、いつかは使われ載せられていることを知って、素敵だなと思いました。

荻野さんに見せてもらったノートが何を書いているかわからなかったけど、いい経験ができたので良かったです。新聞についてもっと知りたいと思いました。

荻野さん、宮本さん。先日はありがとうございました。新聞は難しいものだと思っていましたが、実は中学生向けに作られたものだと知って、「難しい」で片付けてしまうのではなく、目を向けて見るのが大事なんだと気付きました。私は、新聞を作る人のイメージとして「メンタルが強い人」「じっとできる人」だと思っていましたが、今回のお話を聞いて、じっとできなくても記者だったら、動き回れるし、どんな人でもなれるんだなと思いました。

今まで新聞を読んだりして読者として新聞に関わってきたけど、記者とか作る側のことはあまり知らなかったのを知れて良かったです。特に、新聞に出す前に何度もチェックすることや、記者自身が体験して記事を書くこともあるということが驚きました。1日分の新聞にたくさんの手間と努力があるんだなと感じました。

今回話を聞いて、新聞を作るには取材がいるんだなと思いました。それに新聞を作る時もいろんな工程があって大変そうでした。新聞社の人は真面目な人が多いと思ったけど、今回来てくれた宮本さんと荻野さんは結構フレンドリーで楽しかったです。荻野さんが今でも吹奏楽をしていると聞いてびっくりしました。社会人になっても続けられていてそんなに楽しいんだなと思いました。東京から淡路に配属されて、配属された1日めに取材に行かされていてすごいなと思いました。それに中学生が読みやすいように書かれているなんて思わなかったから、これから新聞を読む機会があったらきちんと読んでみようと思いました。今回はたくさん勉強になりました。

体調不良で話が聞けませんでした、友達の話を聞いて面白そうでした。

神戸新聞の取材をしている荻野さんとデスク宮本さんに来てもらい、新聞記者の裏側を知ることができました。まず新聞を作るためには取材が必要です。取材をしてからもたくさんの仕事がありました。僕たちのもとに新聞が届くまでたくさんの作業をされていることがわかりました。取材にはたくさんの種類があって警察担当やスポーツ担当などがあり、警察担当の中でももっと枝分かれするらしいです。荻野さんは最初警察署で副署長の取材をしていたそうです。取材は緊張しないのか気になりました。誰かが質問していました。最初はすごく緊張したそうです。でも今は慣れたそうです。新聞は中学生向けにわかりやすく書くことを心がけているそうです。新聞を当たり前に見ているけどいろんな人が協力して僕たちのところに届いているんだなと思いました。

僕はあまり新聞について知らなかったけど、宮本さんと荻野さんの話を聞いて新聞作りには色々な部署があってそれぞれの仕事が大変なことがわかりました。これからは、新聞について興味を持ちたいと思いました。

だいたい新聞を作るのは知っていましたがこんなに大変なんていりませんでした。私は、書いたりするのがあまり得意じゃないのですごいと思いました。

私は今回の話をきいて新聞へのイメージが変わりました。これまでほとんど新聞に目を通すことなく生活してきた私ですが、その中で唯一持っていた印象は、「堅苦しい」というものです。特に事件や政治に関しての記事では、使われている言葉や内容が大人向けなものが多いと感じていました。このように新聞に対して興味を持つことがなかった私も、今回のお話しを通して新聞が出来上がるまでの経過や新聞記者の生活を知ったことで、少し面白みを感じられました。また新聞には最新の社会の動きが記事として書かれており、このような話題は現在の社会の中で働き生活していく大人だけでなく、これからの社会を作っていく私たちも知る必要があるのではないかと考えました。

先日、荻野さんと宮本さんのお話を聞いて記者の仕事に興味が湧きました。たくさんの事が知れて、たくさんの人に思った事を伝えることができる、素晴らしいお仕事だと感じました。たくさん経験ができるのは記者のいいところだなと思いました。神戸新聞は、私たちの身近な生活を新聞にしているのが、私でもできるかなと思いました。また、宮本さんが新聞を「中学生」に向けて作っているとおっしゃっていたのが印象に残っています。私は新聞は難しいことしか載っていないものと勝手に思っていたけど、一度しっかり読んでみたいです。

新聞記者のことをあまり知らなかった。新聞記者が一生懸命書いてくれた記事を鉛筆で落書きしたりしていました。今の情報をとるときは、テレビやスマホで情報をとっていましたが、たまには、新聞紙を見てもいいと思いました。一番最初に思った事は、人とのコミュニケーションが大事だと思いました。取材をする時、相手に失礼な事を聞くと、質問に対しても答えなくなるので大切だと思いました。私は、新聞が色がなく、字が小さくて面白くないと思っていたけど、次読むときは、真剣に新聞を読みたいと思いました。